

学校だより



くるだ

令和5年7月3日 第4号
富士宮市立黒田小学校
富士宮市星山 1030-2
電話 0544-26-2670

学校教育目標

自分事として学び、共に活動する子

しなやかで感受性豊かな子供

校長 米津 英郎

2年生と3年生は、野菜を育てています。2年生は生活科でキュウリやミニトマトなどを、3年生はキャベツを育てています。キャベツは食べるためではなく、理科の学習でキャベツを食べるアオムシを観察するためです。

教室にランドセルを置いた子供たちは、世話をしている野菜の周りに一目散に集まってきます。走ることを何回注意されても走ってくる子供もいます。走ることを許しているわけではありませんが、子供たちが、野菜を育てることに夢中になっていることはよく伝わってきます。

「トマトの実がなってる。」「キャベツの葉っぱがまた大きくなった。」「キュウリにいっぱいトゲトゲが付いている。スーパーで売っているキュウリにはトゲトゲがないのにね。」などつぶやきながら、野菜の生長や新しい発見をして、子供たちは喜んでいきます。そこには、**しなやかで感受性豊かな子供の姿**がありました。

その姿を見ながら、昨年度、2年生と交わしたある会話を思い出しました。その子供はキュウリを育てていました。以下に示します。

校長	・ どうして、キュウリを育てようと思ったのですか。
子供	・ (黙ってにこにこしている。)
校長	・ 分かりましたよ。キュウリが好きなのですね。
子供	・ (黙って、首を横に振る。にこにこしている。)
校長	・ キュウリがどうやって大きくなるか、知りたかったんだね。
子供	・ (にこにこしながら、首を横に振る。) えーっと、 (私はキュウリを) あんまり好きでも嫌いでもないけど、お母さんが (キュウリを) 好きだから。 (にこにこして首をかしげる) ※ () は米津が追加した言葉です。

一見、子供は何も考えずに生活しているように見えますが、**私たち大人の言動を敏感に感じ取り、私たち大人が思っている以上に、大人や周りのことを考えて発言したり行動したりしている**と、私は思っています。

6月28日(水)第4校時、保健室で体の具合の悪い子供(中学年)が、保健の先生と次のような会話をしていました。

保健の先生	・ お家の人に連絡してみようか。心配だからお家の人に迎えに来てもらおうね。
子供	・ うーん。でも……。お母さんに 心配をかけたくないから。

「子供の思いはどこにあるのか、子供の思いに寄り添っているのか」と問い返しながら子供の姿を見つめ、7月も教育活動に取り組んでいきます。よろしくお願いします。